



神保リリベス

■出身地/フィリピン
■来日時期/1993年～

アンケートの結果、多くの日本人・外国人が『いざという時』の近隣や地域での助け合いと普段からのコミュニケーションの大切さを感じていることがわかります。そんな皆さんのヒントになればと1月29日(火)に外国人市民に集まっていたき座談会を開催しました。

東日本大震災から2年、被災地から離れている私たちの緊張感は、少し薄れてきたように感じます。もう一度考えてみませんか。

きに一緒にいたい』と思い、来日しました(笑)。
アン▶娘と公園にいる時でした。近隣のお友達と一緒にでしたが、すごく怖かったので、インドに帰りたと思いました。夫が帰ってくるまでは、お隣の家にはいました。

許▶夫は日本にいたので、すぐには連絡がつかず心配しました。しかし、夫は「日本では会社でもいろいろ備えているから大丈夫だ」と言っていました。

あなたの国で地震などは起きますか？
起きる前・後の行動で
日本との違いはありますか？

リリベス▶フィリピンでも地震は多く、1990

地域でのコミュニケーションはありますか？

リリベス▶今は働いているし、上の子ども達が大きくなったので、あまりお付き合いがありません。でも、子ども達が小さい頃のお友達とはメールや電話で連絡を取り合っています。

王▶最近になって、お隣の日本人とお話しをするようになりました。とてもフレンドリーな方達です。

アン▶日本に来たばかりの時は外にも出ず、日本語を学ぶ気にもなれませんでした。娘が生まれてからはご近所の方達とも話すようになり、日本語もわかるようになってきました。子

いです。

王▶家族の安否が心配です。あとは、食べ物や水などの物資の助けが必要になると思っています。

リリベス▶家族と連絡が取れなくなることが心配です。落ち着いてからは、家や食糧などが気になります。地震の後は品物の売り切れやうわさが多くなるので、直接情報をもらえたり、避難所で声をかけてもらえたりすると安心です。

これから何か用意をしようと思いませんか？

リリベス▶私は玄関に水などと非常用バッグを用意してあります。また、お風呂の水も栓



王睿(オウエイ)

■出身地/中国
■来日時期/2011年～

特集 SPECIAL ISSUE

座談会

DISCUSSION

災害時における地域の助け合い



許文純(キョウ ウェンチュン)

■出身地/台湾
■来日時期/2012年～

2011年の東日本大震災は経験しましたか？どうでしたか？

リリベス▶地震の時は夫と自宅にいました。とても怖かったし、停電になって食事が大変でした。しかし、子ども達も無事に帰って来て安心しました。毎年、川崎市国際交流協会の避難訓練にも参加しているので、パニックにならず落ち着いて行動できました。震災後、家族で集まる場所を決めたり、水や食料品などを準備したりしています。

王▶地震の時は夫だけが、日本にいて、すぐには連絡がつかず心配でした。次の日に大丈夫だと連絡がありましたが、『世界が終わると

年頃に大地震が起きました。でも、避難訓練などした記憶がありません。しかし、配給などのチラシは配られたことがあります。国際交流協会の避難訓練には毎回参加していて、参加直後に3.11の震災があったため役に立ちました。

アン▶インドでも起きますが、あまり感じたことないです。大きい地震は日本が初めてでした。

許▶台湾でもやはり起きますが、あまり心配するほどではないです。小学校では避難訓練があります。

王▶中国では、地震を経験したことはありません。避難訓練もやったことはありません。

どもの友達とは家の行き来もします。震災後、インドに帰った時、両親や夫にインドにいるように言われました。しかし、夫は日本に帰りまし、娘も日本に馴染んでいるので、日本に帰ってきました。お隣の方は娘のために日本の食べ物をインドに送ってくれたくらいです。

許▶ご近所の方とは挨拶を交わす程度です。しかし、いざという時、帰ってこられるように、自宅は夫の会社の近くに引っ越ししました。

もし、災害など起きた場合、何が心配ですか？
またはどのような助けが必要ですか？

許▶原発などの心配もあるので、情報が欲し

を抜かず溜めてあります。

王▶防災マップを準備して見える場所に設置しようと思います。

許▶非常時の電話番号を知っておくことが必要ですね。

実際に災害への備えをしている方もいらして感心しました。誰でも知らない人に声をかけるには、勇気がいると思います。それでも、「いざという時こそ…」勇気をだしてお互いに声をかけあいましょう！お忙しい中、ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

(取材・文・編集ボランティア 青柳尚子/伊東都)



デュレイバンディアン・アンパシ

■出身地/インド
■来日時期/2008年～

防災・災害アンケートより

今回のSIGNALでは、日本・外国人市民に向け防災や災害についてのアンケートを実施し、147名より回答をいただきました。多くの市民が日常からの交流の必要性とともに、多言語での情報の大切さを感じているようです。また、3.11時、外国人市民はテレビやインターネットからの情報を得ており、正確で敏速な多言語情報が求められています。

災害が起きた時、外国人には何が最も重要だと思いますか？

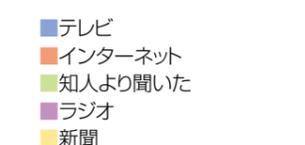


災害時に日本人・外国人が互いに助け合うには何が重要だと思いますか？

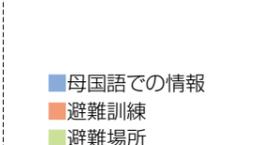


外国人市民へのアンケート

地震の時、情報はどのように手に入れましたか？



地震の時、何が役に立ちましたか？



アンケートのご協力ありがとうございました。